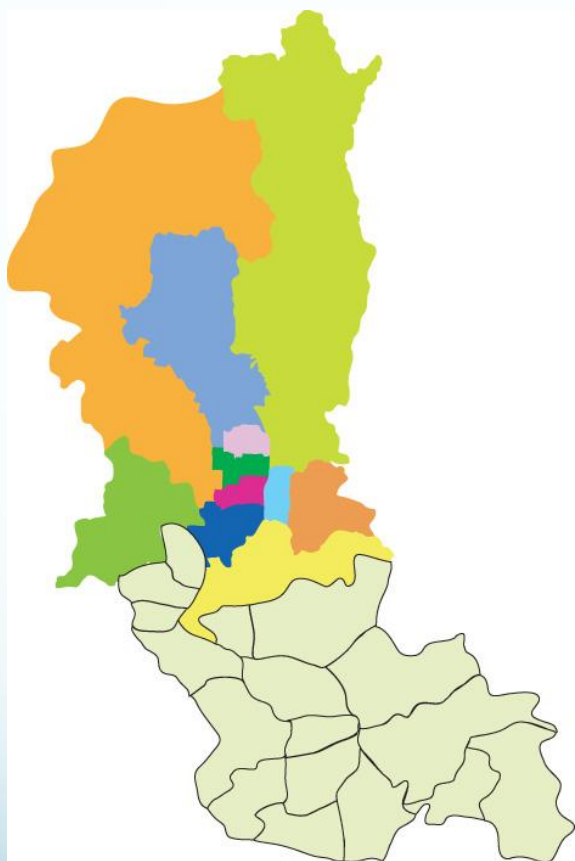


野生鳥獣救護センターだより 2012

(平成24年4月1日～平成25年3月31日)



京都府が策定している鳥獣保護事業計画に基づき、京都市動物園野生鳥獣救護センターでは、京都市で保護された野生の鳥類とほ乳類の救護活動を行っています。

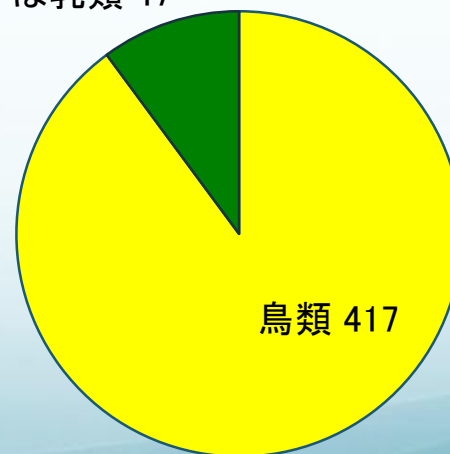
京都府下の他の地域では福知山市の三段池公園動物園、公益社団法人京都府獣医師会、公益社団法人京都市獣医師会等も協力し、救護活動を行っています。

救護された動物たち

京都市動物園救護センター

平成24年度に救護された動物は、鳥類が50種417点（89.9%），ほ乳類が10種47点（10.1%）の合計464点でした。ただし、前年度から鳥類11点，ほ乳類3点を引き継いでいるため，実際の取扱は478点になります。

ほ乳類 47

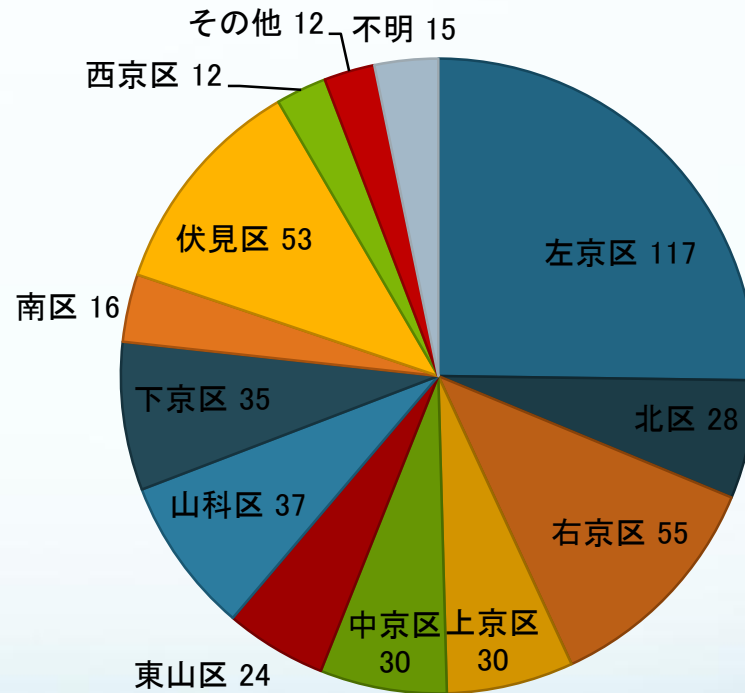
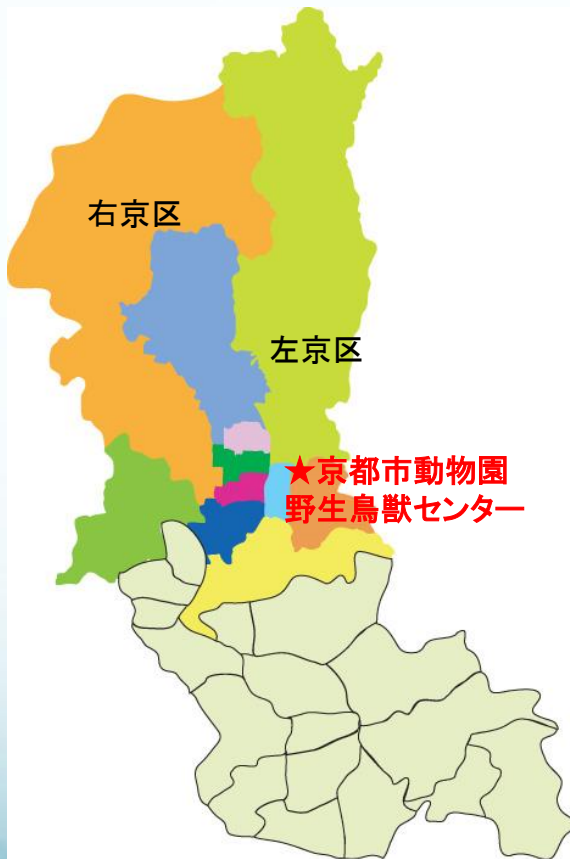


鳥類 417

* 旧救護センター入口

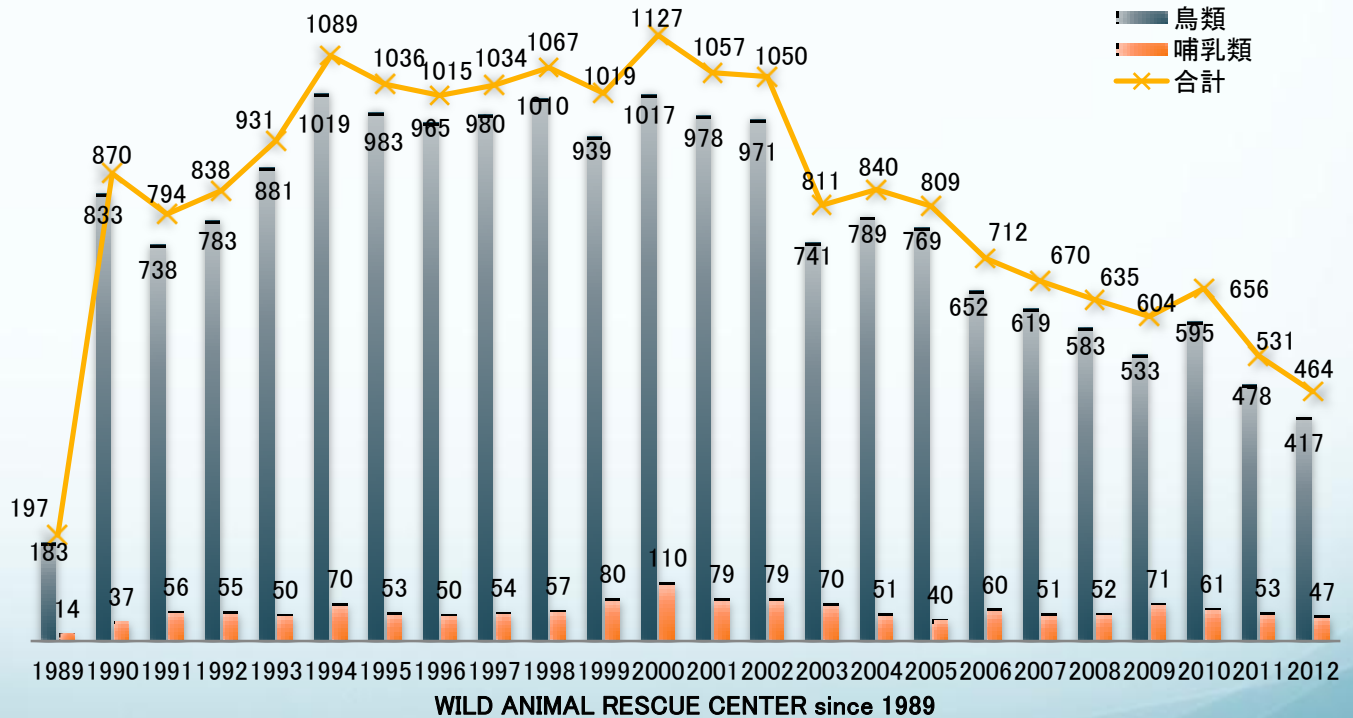
救護された地域

左京区，右京区，伏見区での救護件数が多く，全救護数の約半数を占めています。



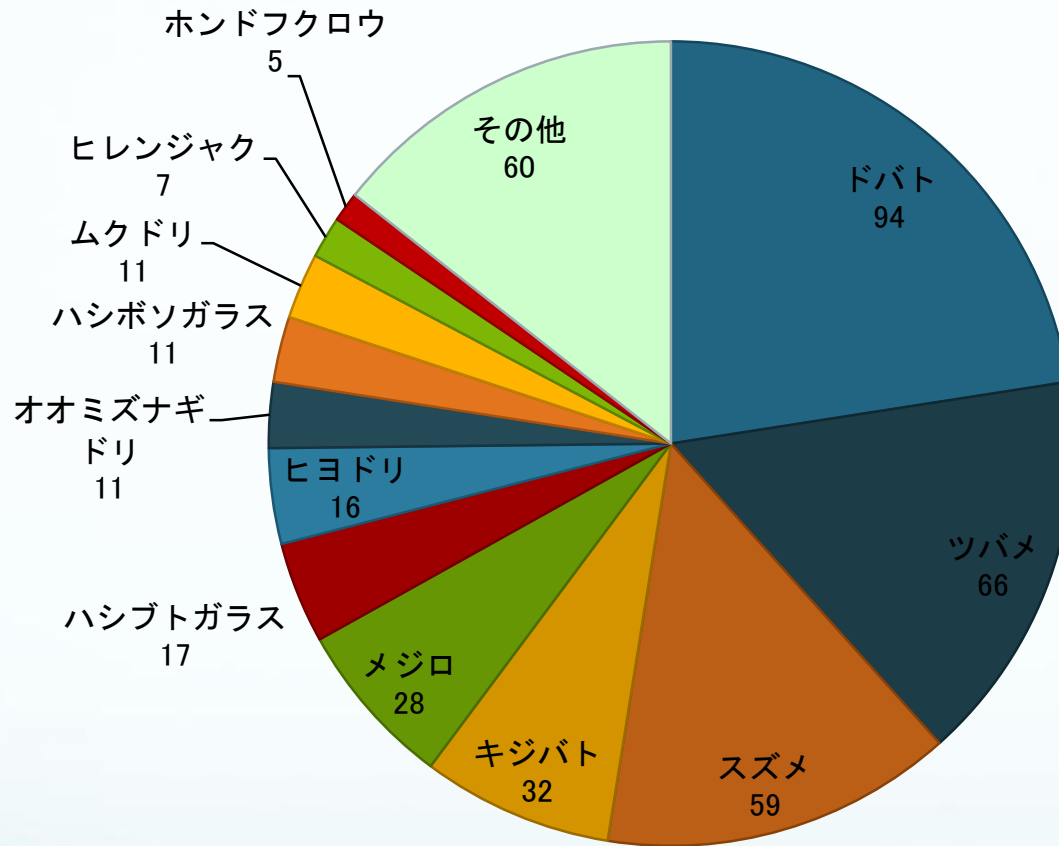
救護件数の推移

ここ数年、総救護件数は漸減してきています。これは、全国的に展開されている「ヒナをひろわないでキャンペーン」やこれまでのセンターの啓発活動を通して「自然に任せる方が良いケース」が理解されて始めたのも一因になっていると考えています。



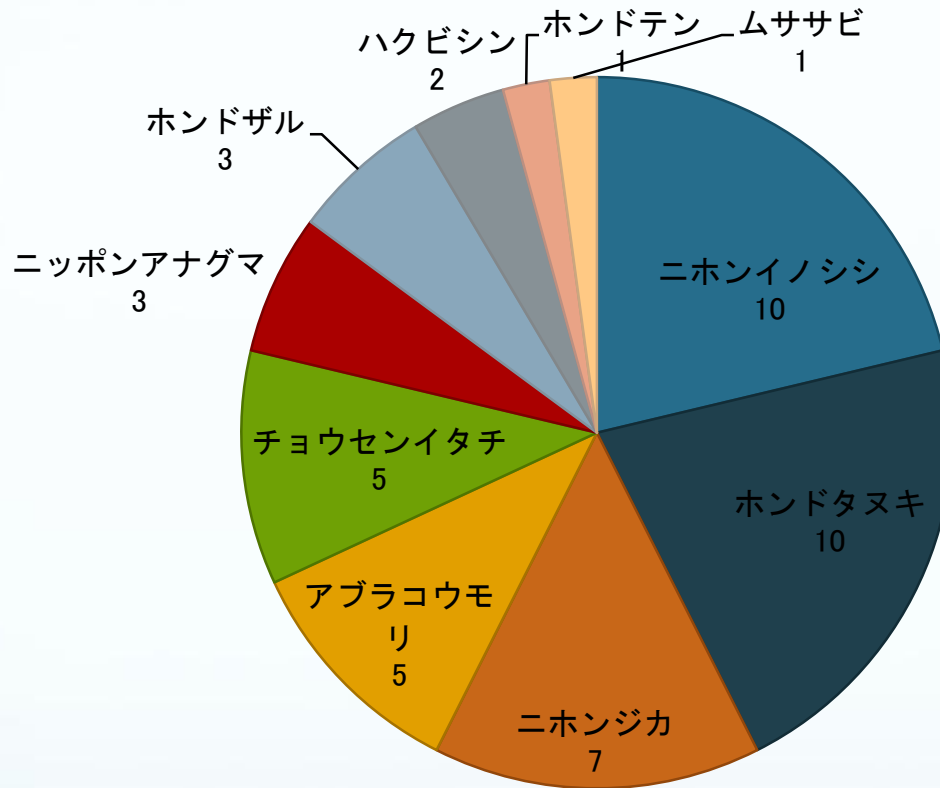
このポスターは、(財)日本野鳥の会・(財)日本鳥類保護連盟・NPO法人野生動物救護獣医師協会が共催した「ヒナをひろわないで!! キャンペーン」のものです。

種別救護割合(鳥類)



救護されてくる鳥の種類は、ドバトやスズメ、ツバメなど町中にいる鳥たちが大勢を占めます。また冬場に渡りの最中に衝突などの原因で救護されてくるオオミズナギドリが11羽救護されてきました。

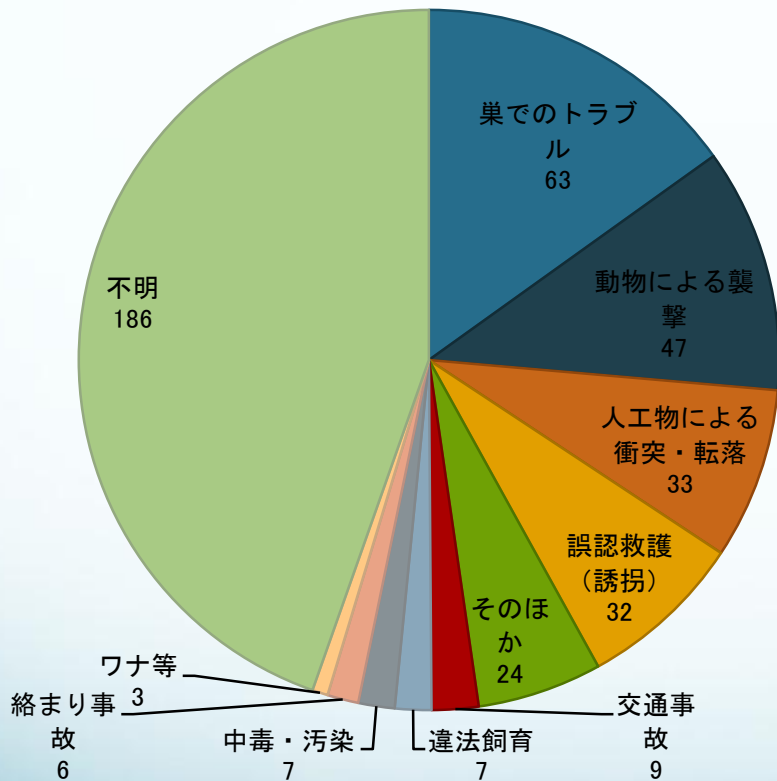
種別救護割合(哺乳類)



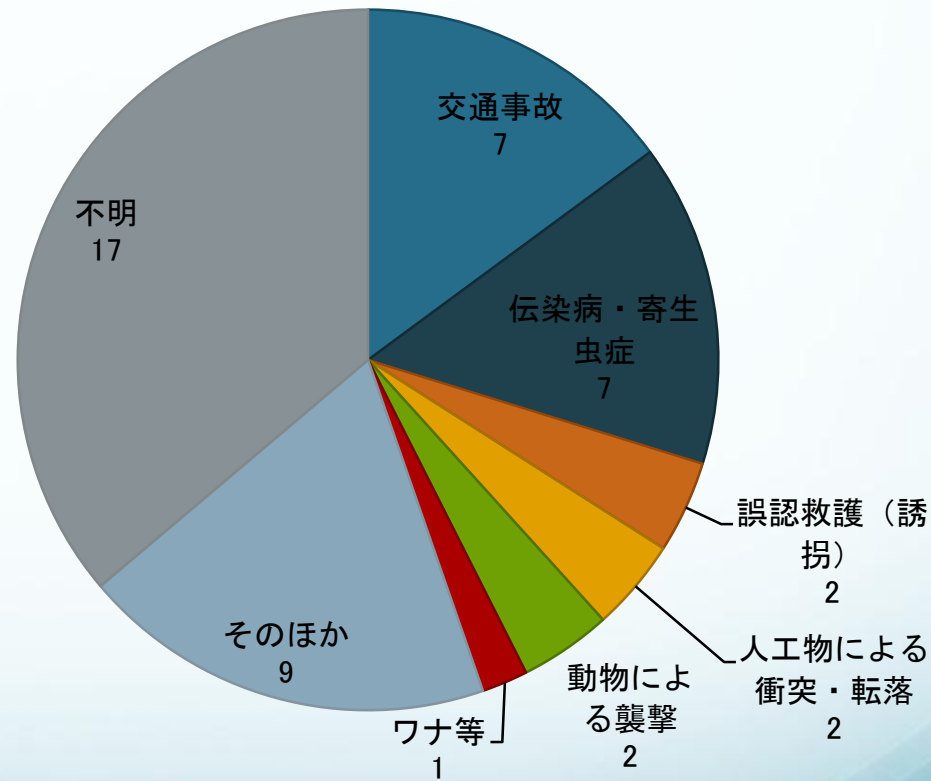
昨年は例年と比較しホンドタヌキの比率が低く、全体の20%程度でした。ホンドタヌキの救護理由は疥癬症が7割（7件）を占めています。疥癬症は本来ペットであるイヌや猫に寄生するヒゼンダニがタヌキにも感染し、脱毛し皮膚がゾウの皮のように厚くなり、抵抗力が低下、衰弱して死に至る病気です。

救護原因

鳥類



哺乳類



救護された動物たちのその後

平成24年度中に救護された464点および前年度から引継いだ14点の合計478点のうち、177点（37.0%）が野生に帰すことができました。また、野生復帰ができない7点について飼育ボランティアとして引き渡しました。

